

## 【コラム】

### 「タイの新たな国家戦略（バイオ・サーキュラー・グリーン経済政策）」

機械振興協会経済研究所 特任フェロー 桑田 始

## コロナ禍の状況

タイの続報です。まず、コロナ禍の状況です。（前回の報告は[こちら](#)）

2020年1月13日に最初のコロナ患者がタイで確認され、3月26日には、全土で非常事態宣言が施行されました。タイの社会・経済は、一変し、4月～6月にかけて、夜間の外出禁止、レストラン等の営業禁止、外国人の入国禁止、国境の閉鎖が実施されました。その効果もあって、5月26日には、新規感染者数ゼロになったため、夜間外出禁止令も解除され、6月30日には、他の活動も再開されました。ASEANの中では、ベトナムとともにコロナウイルス感染封じ込めに成功しているかに見えました。当初、アジア通貨危機時（1998年）の対前年比▲7.6%を上回る過去最悪の見通し同▲8.0%だったのが、第3四半期からの回復で同▲6.1%になりました。

その後、2020年12月にバンコク近郊の海鮮市場でのクラスター発生から第2波が到来し、200人～300人/日の感染者がありましたが、本年（2021年）に入り感染者数は減少に転じ、2桁台の推移と落ち着きました。やっと、政府も企業も個人も経済やビジネスや生活を建て直しに取り組みはじめました。

しかし、そのさなか、2021年4月に第3波が到来。英国やインドで見つかった変異株の流入で、4月13日に初めて1,000人/日を超える感染者が確認され、感染の急拡大が続き、7月31日時点では、18,912人/日（7日間平均16,474人/日）（図1参照）です。4月末に導入された公共の場でのマスク着用義務付け（違反には2万バーツの罰金）、バンコクなど都市部の飲食店で店内飲食の禁止でも感染が収まらず、7月12日には、適用地域を拡大するとともに、昨年4月～6月以来の夜間外出禁止、デパート・ショッピングモールの閉鎖など規制が強化されました。非常事態宣言も9月末まで延長され、外国人の入国は引き続き厳しく規制されています。

図 1 - 1 : 新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 新規感染者数推移 (タイ)



図 1 - 2 : 新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 死亡者数推移 (タイ)



図 1 : タイ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 新規感染者数 / 死亡者数推移  
出所) JHU CSSE COVID-19 Dataより筆者作成。

なお、ワクチンは、2021年6月から接種が開始され、7月30日現在、合計接種1600万回(必要回数接種済み365万人、国民の5.2%)。20万回/日~30万回/日接種なので、タイ政府は、日本、米国、中国などのワクチン提供も得て、最終的には70%の国民に接種することを目指しています。

## コロナ禍による社会・経済への影響

コロナ禍は、元々成長が減速傾向にあるタイ経済の弱さを一層際立たせるものになりました。経済成長率は、2018年の4.2%から2019年には2.4%に、更に、コロナ禍の影響がフルに出る前の2020年1月~3月は、対前年比▲2.1%に低下していました(タイ政府は、後ほど触れるように、「中所得国の罫」打破に向け、2017年から、20年国家開発戦略、Thailand4.0の取組みを開始しています)。

コロナ禍のタイ経済への影響をASEAN各国と比較してみます。

まず、世銀の6月見通しでは、タイの昨年（2020年）の経済成長率は、ASEAN 5か国中、フィリピンの対前年比▲9.6%に次ぐ同▲6.1%の悪さ、ベトナムは、逆に同2.9%増とプラス成長。更に、2021年の回復力は、他国が、前年比4.4%増～6.7%増に対して、タイは、同2.2%増に留まります。さらに、世銀は、コロナ第3波が更に猛威を振るえば、タイの成長は、同1.2%増まで、下方修正がありうるとしています。

タイ中銀も、2021年の成長率見通しを6月23日の同委員会では3月の見通し同3.0%から同1.8%増に引き下げていましたが、8月4日に開かれた金融政策委員会で、更に同0.7%増に引き下げました。政府の財政支援や輸出の拡大は継続するものの感染者の急速な拡大による個人消費の弱い動きやサービス部門の脆弱性、外国人観光客の受け入れの遅れ（300万人から60万人に見通しを修正）が生じています。また、2022年も同3.7%と伸び鈍化が見込まれています。

このように、ASEANの中でもタイ経済の回復力の弱さが際立っています（表1参照）。

（単位：％）

国	2019年	2020年	2021年	2022年
マレーシア	4.3	△5.6	6.0	4.2
フィリピン	6.0	△9.6	4.7	5.9
タイ	2.3	△6.1	2.2	5.1
インドネシア	5.0	△2.1	4.4	5.0
ベトナム	7.0	2.9	6.6	6.5

表1：ASEAN 諸国の実質 GDP 成長率の推移  
出所）世界銀行。

その要因を以下にみてみましょう。

タイの観光収入は、コロナ禍前、世界第4位の規模でGDPの19.7%（海外から1.9兆バーツ+国内観光1.1兆バーツ、約10兆円、2019年）を占めていました。2019年の外国人観光客数は、3980万人、それが、今年は、60万人、2019年に比べ▲98.5%。観光関連は、804万人（全就業者の21.4%）が働く産業であり、外国人観光客の受け入れ激減の影響は甚大です。

（参考）タイ政府観光庁総裁によれば、2020年の外国人観光客数は、約670万人で海外からの観光収入は、3,320億バーツ（約1兆1,400億円）と2019年に比し8割以上減少し、1兆5,980億バーツ（約5兆5,000億円）が失われた。観光業全体では、国内観光も6,190億バーツ（約2兆円）減少したため、2兆2,000億バーツ（7兆5,000億円）以上の損失となりました。

他のASEAN諸国と観光業の経済に占めるウェイトを比較（2019年）すると、フィリピン（対GDP比25.3%、雇用者比率24.1%）を除き、ベトナム（対GDP比8.8%、雇用者

比率 9.1%)、マレーシア (対 GDP 比 11.5%、雇用者比率 14.7%) インドネシア (対 GDP 比 5.7%、雇用者比率 9.7%) とタイに比し格段に低くなっています (表 2 参照)。

国名	国際観光客数 (万人)	観光産業が GDPに占める 割合(%)	観光関連就雇用者	
			雇用者数 (万人)	全体に占める 割合(%)
タイ	3,980	20	805	21
マレーシア	2,610	12	221	15
ベトナム	1,800	9	495	9
インドネシア	1,550	6	1,256	10
シンガポール	1,510	11	52	14
フィリピン	830	25	1,023	24
カンボジア	660	26	237	26
ラオス	440	9	32	10
ミャンマー	440	5	107	5
ブルネイ	30	6	1	8

表 2 : ASEAN における観光産業の経済効果 (2019 年)

出所) 一般財団法人自治体国際化協会 CLAIR REPORT No.508 『ASEAN における観光政策』

また、タイは、自動車産業の一大集積地で、マレーシア、ベトナムが電気電子関連の輸出全体に占める比率が高いのに対して、自動車が輸出全体に占める比率が高い。その構造が経済の回復スピードの違いとなっています。ベトナムなどがコロナ禍によるデジタル機器への需要急拡大で電気電子関連の輸出が急増したのに対し、タイの輸出は、自動車の回復が遅れた影響が出ています。

更に、農業等の第一次産業の生産性の低さも大きく影響しています。第一次産業の労働人口は 1,180 万人で、タイ全体の総労働人口 3,850 万人の 31%を占めますが、GDP 構成比で見ると、第一次産業は、全体の 7.9%に留まります。

なお、コロナ禍は、低所得者層ほど厳しい影響を受け、所得格差が一層増すとともに、地域間の経済力格差も更に拡大させる方向に働いています。コロナ禍で、失業率は、2020 年 1~3 月の 1%から 2021 年 1~3 月 2%に上昇し、失業者数は 30 万人強増加しました。サービス事業関連がその増加の半分を占めています。貧困率も、これまでは顕著に改善してきましたが、2019 年の 6.2%から 2020 年には 7.4%(70 万人増)で、地域別では、バンコク 0.1%、バンコク近郊都市部 3.6%に対して、地方は 8.9% (特に、東北部 10.3%,北部 8.6%) と大きな影響を受けました。

こうした事態に対してタイ政府がとった累次のコロナ対策 (休職に伴う給与の半額補助、生活保障給付の配布、雇用主への雇用維持補助など) は、功を奏し、貧困率は、当面、7.4%から 6.0%にまで下がりました。ちなみに、タイ政府の景気刺激策による財政赤字は、2020

年対 GDP 比▲7.4%、2021 年同▲10.5%に達します。特に、日本での混乱と違い、デジタル ID を活用したプラットフォームにより各種アプリを連動させ、支援の必要な人を特定し迅速な現金給付が実施されたことは、国際的にも高く評価されています。

## タイの国家戦略

コロナ禍は、改めて、タイの国家開発戦略の重要性を再認識させるものとなりました。前述したように、タイは、「中所得国の罌」に嵌まっていることへの危機感から、2017 年 6 月に新憲法を公布し、それに基づく「20 年国家開発戦略（2017 年から 2036 年）」により、2036 年までに高所得国入り（今の 2 倍に近い一人当たり GDP 13,000\$）を目指しています。その中核の政策が、「Thailand 4.0」であり、EEC（東部経済回廊）への重点投資による開発、10 の重点産業分野の育成を推進<sup>(注)</sup> してきています。

2020 年 12 月 24 日、プラユット首相は、「国家戦略に基づいたコロナ影響による特別計画（2021～2022）」を打ち出しました。これは、前国王であるラマ 9 世の「足を知る経済」の哲学を色濃く反映しています。「Thailand4.0」のなかでも、タイの自前の資源、技術、人材をベースに潜在力を開花させる分野に注力し、借り物でない自律した経済を目指します。

## BCG 経済モデルの推進

それが、バイオ・サーキュラー・グリーン（Bio-Circular-Green：BCG）経済モデルです。2021 年 1 月、プラユット首相が議長を務める BCG 委員会が初めて開催され、BCG 経済モデルを国家戦略モデルに据え、2021 年～2026 年までの 5 年間の BCG 戦略計画が承認されました。BCG 経済モデルでは、特に Thailand4.0 で推進すべき 10 の産業分野のうち、4 つの産業分野、「農業と食品」「ヘルスケアと医療サービス」「バイオエネルギーとバイオケミカル」そして「観光と創造経済」に焦点を当てています。

現在、これら 4 つの産業分野の経済価値は、合計で 3.4 兆バーツ（約 12 兆円）であり、GDP の 21%を占めています。BCG 経済モデルは、今後 5 年間でこの数値を 4.4 兆バーツ（または GDP の 24%）にまで引き上げることが出来ると期待されています。

## Saping Traditional Sectors with BCG Model

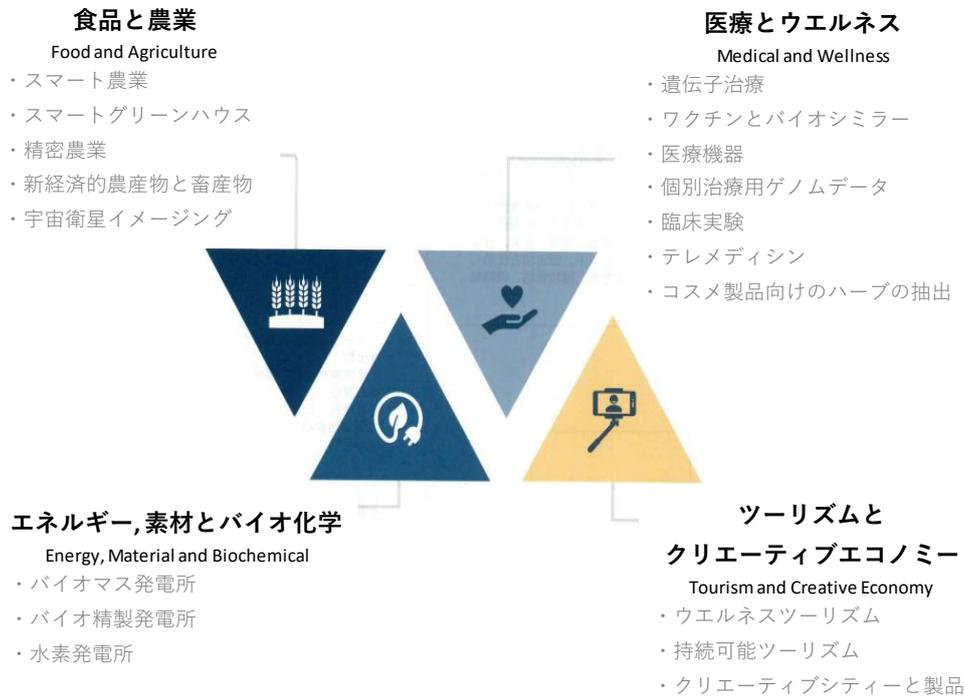


図 2 : BCG モデルによる伝統的セクターの形成

4 つの産業分野について、以下に紹介します（図 2 参照）。

### 「農業と食品」分野

タイでは、人口の 31% が農業セクターに従事していますが、GDP への寄与は前述のように 7.9% と低く、農耕地の 9 割の土地利用が 6 大作物（コメ、サトウキビ、キャッサバ、ゴム、パームオイルとトウモロコシ）専用です。サトウキビ以外の作物の生産量は、2000 年以降ほぼ横這いで、生産量が最も多いサトウキビも、環境問題から焼き畑の抑制が課題です。こうした主要製品の生産性の向上や高付加価値化・高品質な製品・サービスの開発、更に、廃棄物の削減、資源と土地利用の効率化で、この分野の付加価値を倍増できると見込んでいます。デジタル活用の植物工場開発、患者や高齢者など向けの新たな食品、機能性食品開発を推進します。

### 「ヘルスケア及び医療サービス」分野

タイの人々は、年間 1700 億バーツ（約 6,000 億円）を医薬品に費やしており、その 70% は、輸入医薬品です。タイには、800 種類の薬草がありますが、タイの薬草産業は 36 億バーツ（約 125 億円）相当の原材料を輸入しています。これを好転させるため、ワクチン、バ

イオ医薬品、医療機器の開発に焦点をあて、研究・試験施設に投資します。予防医学と個別化医療促進するため、遺伝子データの利用や研究者、業界、規制機関などの関係者間の臨床研究を促進するためのプラットフォームも確立されます。

### 「バイオエネルギーとバイオケミカル」分野

政府の代替エネルギー開発計画で、2036年までに総最終エネルギー消費量の30%を再生可能エネルギー由来とする目標が掲げられており、バイオエネルギー分野は高い潜在成長力を有します。現状、4,000万トン/年のバイオマスが未利用で廃棄されています。例えば、ゴミ由来燃料(RDF)などの再生可能エネルギーからのエネルギー生産に関する最新技術の活用、エネルギー貯蔵システムの開発、バイオマスなどの再生エネルギー使用し、ブロックチェーン対応のスマートグリッドで接続された分散型エネルギー(DEF)システムを備えるコミュニティベースの発電所設置などです。

### 「観光とクリエイティブ経済」分野

タイの観光収入は、前述のように、3兆バーツ(10兆円強)でGDPの約2割を占めており、その観光客の8割は、バンコク、プーケットなど8県に集中しています。タイの観光産業は、新しい観光地として二次都市やコミュニティをアップグレードするとともに、技術とイノベーションでインフラを向上させ、デジタルプラットフォームの構築により、観光客の利便性と実体験を改善します。また、科学技術は、環境収容力などの観光に関する国内ガイドラインを定義し、持続可能な観光基準システムをサポートし、環境の保護・修復に活用します。

クリエイティブ経済に関しては、観光は他のサービス産業とリンクして、健康、料理、エコツーリズム、文化、スポーツなどのニッチ市場をターゲットとする質の高い観光を開発します。

タイ投資委員会(BOI)によると、2020年のBCG産業への投資申請額は、1,148万バーツ(約4,021億円)対前年比17%増となり、BOIは、BCG構想の下での投資促進対象は、消費者に近い川下産業だけでなく、植栽や動物の飼育などの川上産業も含むとしています。

## 日系企業の取組み

5,800社を超える日系企業が進出しているタイでは、BCG分野においてもその活躍が期待されています。特に、タイ投資委員会(BOI)は、Thailand4.0と親和性が高いため、川上から川下までのサプライチェーンを含め同分野での外国投資に高い税制上の恩典等を付与します。クモの糸の遺伝子から特殊な繊維を作るスパイバー社がその材料のタンパク質製造を計画したり、昨年、BOIの恩典対象に追加された植物工場について取り組んだりする

会社も出始めました。これらの分野は、デジタル産業と異なり、現実世界でのモノの生産や移動の効率化、省エネに係る部分が大きく、製造や物流に一日の長がある日本の技術やノウハウが大きな役割を果たします (JETRO バンコク北見創 広域調査員)。この機会を活かし、タイ発で ASEAN でのビジネス機会の拡大に結び付けばと思います。

なお、中国は、「一帯一路」と Thailand4.0 の連動を図るべく、デジタルで、ファークウェイがスマートシティと 5G 中心に投資を加速し、アリババ、京東も電子商取引分野で人材育成から農産品等の輸出促進まで包括的な取り組みを展開しています。

注：Thailand4.0 で注力する 10 の産業分野は、以下の通りです。

次世代自動車から未来食品までの 5 つを「既存産業」として短・中期に育成し、ロボット産業から医療ハブの 5 つを「未来産業」として長期に育成する。①次世代自動車 (Next Generation Automotive)②スマート・エレクトロニクス (Smart Electronics)③富裕・医療・健康ツーリズム (Affluence, Medical & Welfare Tourism)④農業・バイオテクノロジー (Agriculture and Biotechnology)⑤未来食品 (Food for the Future)⑥ロボット産業 (Robotics)⑦航空・ロジスティック (Aviation and Logistics)⑧バイオ燃料とバイオ化学 (Biofuels and Biochemical)⑨デジタル産業 (Digital)⑩医療ハブ (Medical Hub)

以上